食ライフスタイルに関する研究 (5)

—食ライフスタイル尺度 (食 LSS) の作成—

○渋谷昌三¹・小野寺敦子²・河野理恵², 西川千登世³

(¹ 目白大学社会学部, ² 目白大学人間学部, ³ 目白大学大学院心理学研究科)

キーワード: 食ライフスタイル, 大学生, 食ライフスタイル尺度

Research on Dietary Life Style (5)

-A study for the development of a Dietary Life Style Scale-

Shozo SHIBUYA, Atsuko ONODERA, Rie KAWANO and Chitose NISHIKAWA

(Mejiro University)

Key words: Dietary Life Style, University student, Dietary Life Style Scale

目 的

渋谷他 (2009) は食ライフスタイル尺度を試作し, 幼児を持つ母親の食ライフスタイル・タイプ, 養育態度, 食へのこだわりなどとの関係を検討した。なお, 食ライフスタイルとは, 個人のもつものの見方や考え方, 生き方 (ライフスタイル) が食に関連した諸事象に反映されていることを意味している。本研究は, 食ライフスタイル尺度の汎用化を目的としている。渋谷他 (2009) では平均年齢約 35 歳の幼児を持つ母親を対象にしたが, 本研究では平均年齢約 20 歳の青年 (大学生) を対象に調査を実施した。つまり, 試作版・食ライフスタイル尺度の一貫性や相違点を調査対象者の特性を変えて検討した。なお, 今後は中高年者や高齢者を対象に同様の調査研究を実施する予定である。

方 法

調査対象者: 都内私立大学に通う大学生を対象に自記式質問紙調査を実施し, 欠損値の多いものや回答が不明瞭なものを除いた 378 名 (男性 87 名, 女性 291 名) を分析の対象とした。平均年齢は 19.89 歳 ($SD=1.55$) であった。

調査時期: 2010 年 1 月～3 月。

質問紙構成: (a)食ライフスタイル尺度 57 項目 (渋谷他, 2009), (b)食共行動 10 項目, (c)エゴレジリエンス尺度 14 項目, (d)養育態度尺度 17 項目, (e)親子関係尺度 12 項目, (f)ライフスタイル 80 項目, (g)GHQ12 項目, (h)こだわり 4 項目, (i)食こだわり尺度 22 項目, (j)個人属性 (性別, 年齢, 居住形態, 通学時間, 食事の摂取状況, アルバイトの有無)。回答は, (a)～(g)については 4 件法, (i)(j)については 5 件法により評定を求めた。なお, 上記の(b)～(j)については, 本研究の一連発表『食ライフスタイルに関する研究(6)(7)(8)』で詳述した。

結 果

食ライフスタイル尺度 57 項目を対象に探索的に因子分析 (主因子法・バリマックス回転) を行った。固有値の変化と解釈の可能性を考慮した上で, 因子負荷量.35 未満の項目を削除した結果, 4 因子解を採用した。その結果を Table1 に示した。第 1 因子は, 和食を作る, 伝統食を作る等の 8 項目で構成されており「伝統重視」, 第 2 因子は, 得意な料理がある, 料理は楽しい等の 5 項目で構成されており「料理好き」と命名した。第 3 因子は, ファーストフードの利用やコンビニの弁当を利用する等の 6 項目で構成されており「コンビニエンス」, 第 4 因子は, 食材の取り寄せや雑誌・TV で取り上げられた店に行く等の 4 項目で構成されており「食への好奇心」と命名した。また, 各下位因子の α 係数は.60～.82 であった。これらは渋谷他 (2009) とほぼ同じであった。なお, 食ライフスタイル尺度について, 構成概念妥当性を検討するため AMOS を用いた確認的因子分析を行った。その結果, GFI=.89,

AGFI=.87, RMSEA=.06 であり, 数値はすべて 1 %水準で有意であったので問題ないと判断した。これらも渋谷他 (2009) とほぼ同じであった。

Table 1 食ライフスタイル尺度因子分析結果 (主因子法・バリマックス回転)							
項目No.	項目内容	前回因子	F1	F2	F3	F4	共通性
伝統重視因子 ($\alpha=.82$)							
46	和食(煮物など)を作る	伝統重視	.89	.25	.01	.02	.54
43	おせち料理(一品でも)や赤飯などの伝統食を作る	伝統重視	.86	.05	.04	.10	.46
47	伝えていきたい味が家の味がある	伝統重視	.83	.12	.03	.16	.44
20	献立に季節の素材を取り入れている	伝統重視	.81	.16	-.06	.21	.44
48	年中行事に合わせた食べ物(おはぎや散らし寿司等)を食べる	伝統重視	.80	-.08	.11	.22	.43
18	栄養バランスを考えた食事を作っている	伝統重視	.50	.26	-.20	.08	.36
49	食材は生産地表示を見てから買う		.50	.05	-.06	.19	.29
55	料理に合わせた食器を使っている		.44	.09	.03	.12	.21
料理好き因子 ($\alpha=.76$)							
27	作った料理を家族から“おいしい”と言われる	料理好き	.31	.89	-.01	.03	.57
16	得意な料理がある	料理好き	.20	.86	.02	.10	.49
56	料理は苦手である	料理好き	-.05	-.82	.05	-.05	.39
32	料理をすることは楽しい	料理好き	.22	.58	.10	.01	.39
29	食事作は自分の役目だと思っている		-.07	.48	-.08	.13	.25
コンビニエンス因子 ($\alpha=.71$)							
24	ファーストフード(ハンバーガー・牛丼等)を利用している	コンビニ	-.02	-.04	.79	-.10	.63
23	コンビニ等でお弁当やおにぎりを買う	コンビニ	-.14	-.10	.88	-.05	.50
39	外で食事をする	コンビニ	-.06	-.01	.84	.25	.36
22	おやつにスナック菓子を買う	コンビニ	.06	-.01	.45	-.02	.21
37	すしやピザなどのデリバリー(出前)を頼む	コンビニ	-.02	.06	.43	.20	.23
02	友達とランチをする	好奇心	.20	.01	.36	.24	.22
食への好奇心因子 ($\alpha=.60$)							
38	食材や名産品などのお取り寄せをする	好奇心	.22	.00	.06	.55	.35
01	雑誌やテレビで取り上げられたお店に食へに行く	好奇心	.19	.13	.28	.48	.36
13	友人と料理の情報(レシピやお店等)を交換する	好奇心	.22	.09	.10	.47	.29
08	珍しい料理や食べ物を試してみるのが好きだ	好奇心	.21	.17	-.06	.40	.24
前回の分析結果から削除された項目							
15	食事におそうざいを買ってくる	コンビニ					
17	食事に冷凍食品を使う	コンビニ					
25	ケーキ・クッキーなどを手作りする	好奇心					
26	料理をすることが好きである	料理好き					
30	自分の作る料理の味付けに自信がない	料理好き					
31	献立を考えるのが面倒だ	料理好き					
35	親から教わった料理を作る	伝統重視					
40	子どもに料理を教えたいと思う	伝統重視					
51	食材を使いきれずに捨てることがある	コンビニ					
53	買わなくてもいい食材やおかしをつい買ってしまう	コンビニ					
因子寄与率			3.17	2.11	2.07	1.29	8.64
注) 項目内容に下線があるものは今回の分析で採用された項目			13.77	9.16	9.02	5.62	37.56

考 察

Table1 の表中「前回因子」とは渋谷他 (2009) で見出された各項目に該当する因子名である。「伝統重視因子」では本研究で新たに追加された 2 項目と前回因子から削除された 2 項目があるが, 6 項目は前回因子と共通している。同様に, 「料理好き因子」では本研究で追加 1 項目と削除 3 項目があるが 4 項目は共通である。「コンビニエンス因子」では因子変更 1 項目と削除 4 項目であるが 5 項目は共通である。「食への好奇心因子」では削除 1 項目であるが 4 項目は共通である。

以上の結果から, 平均年齢約 35 歳の幼児を持つ母親と平均年齢約 20 歳の青年 (大学生) を対象にした結果が類似しているといえる。これらのことから, 今後, 調査対象者の世代を拡大する上で本尺度での測定が可能であることが示唆された。

引用文献

渋谷・小野寺・河野・西川 (2009) 食ライフスタイルに関する研究 (1) 食ライフスタイル尺度 (食 LSS) の作成, 日本心理学会第 73 回大会論文集, 221.

本研究は平成 21 年度目白大学特別研究費の助成を得ている。